

2010年9月14日
日本原燃株式会社

再処理施設の工事計画に係わる変更の届出について

当社は、再処理施設の工事計画を下記のとおり変更し、9月10日、「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」に基づき、経済産業大臣に対し、再処理施設の工事計画に係わる変更の届出を別紙1のとおり行いました。

記

○工事計画

再処理施設のしゅん工時期

「平成22年10月」から「平成24年10月」へ変更。

これに伴い、平成22年3月に届出を行いました「再処理施設の使用計画」を別紙2のとおり変更しました。

(別紙)

別紙1：再処理施設の工事計画

別紙2：再処理施設の使用計画

別紙3：「再処理施設の工事計画」の変更に関わる今後の作業内容について

以上

再処理施設の使用計画

○変更前 (2010年3月31日届出)

【単位：tU】

年度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)
受入れ量	94	80	20
再処理量	80	320	480
貯蔵量	2755	2515	2055

○変更後 (2010年9月10日届出)

【単位：tU】

年度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)
受入れ量	94	80	20
再処理量	0	0	80
貯蔵量	2834	2914	2854

「再処理施設の工事計画」の変更に関わる今後の作業内容について

＜工程見直しにあたっての基本的な考え方＞

1. アクティブ試験については、安全を最優先して慎重に進める。
2. アクティブ試験を確実に成功させるために、下記の方策に取り組む。
 - (1) ガラス溶融炉の温度管理を確実なものとするため、温度計の追加設置工事などの必要な設備改善を行う。
 - (2) ガラス固化試験は、東海村にある実規模試験施設（KMOC）と実機の比較検証（事前確認試験）を実施し、段階的にデータを確認しながら慎重に進める。
 - (3) これまでの現場経験を踏まえた確実に実行できる作業計画と、裕度を持たせた全体工程を策定する。
 - (4) 安定運転に万全を期すため、固化セル内の機器点検を継続して実施する。

2011年度内を目途		2012年10月まで	
主な作業等	補足	主な作業等	補足
<p>①B系 溶融炉温度計追加設置工事 高レベル廃液濃縮缶対策 セル内機器点検</p> <p>↓</p> <p>②B系 ガラス溶融炉・事前確認試験 ○模擬廃液を使用し、KMOCと実機の比較検証後、実廃液を使用</p> <p>↓</p> <p>③A系 溶融炉内残留物除去</p> <p>↓</p> <p>④A系 溶融炉温度計設置工事等 セル内機器点検</p> <p>↓</p> <p>⑤A系 ガラス溶融炉・事前確認試験 ○模擬廃液を使用し、KMOCと実機の比較検証</p>	<p>①B系溶融炉温度計追加設置工事・高レベル廃液濃縮缶対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KMOC試験等の結果を踏まえ、炉内の温度状態の変化に適した電力調整を適切に行うため、溶融炉内へ温度計を追加設置。並行して、高レベル廃液濃縮缶対策を実施。 ・工事はセル内機器点検と並行して実施。 <p>セル内機器点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高レベル廃液漏えいに伴う硝酸の影響を受けた可能性のある機器については、既に点検を実施済み。（218機器） ・念のためB系の試験に必要な機器を対象に再点検を実施。（108機器） ・パワーマニピュレータ等を定期的に点検する。 <p>②B系ガラス溶融炉・事前確認試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KMOC試験で得られた成果を実機に適用するため、KMOCと実機との比較評価を行う。模擬廃液による試験を実施後、実廃液による試験を実施。 <p>③A系溶融炉内残留物除去</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガラス残留量は前回と同程度（10数kg）と評価。 ・事前に残留物除去作業訓練を徹底。 ・溶融炉内観察を実施。 <p>④A系溶融炉温度計追加設置工事等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A系溶融炉についても炉内へ温度計を追加設置。 ・A系の結合装置の交換。 ・工事はセル内機器点検と並行して実施。 <p>セル内機器点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・念のためA系の試験に必要な機器を対象に再点検を実施。（110機器） <p>⑤A系ガラス溶融炉・事前確認試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KMOC試験で得られた成果を実機に適用するため、KMOCと実機との比較評価を行う。模擬廃液による試験を実施。 	<p>⑥B系 ガラス固化試験 ○実廃液を使用し、安定運転確認および性能確認</p> <p>↓</p> <p>⑦A系 ガラス固化試験 ○実廃液を使用し、安定運転確認および性能確認</p> <p>↓</p> <p>アクティブ試験報告書提出</p> <p>↓</p> <p>しゅん工</p>	<p>⑥B系ガラス固化試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実廃液による試験を行い、安定運転確認および性能確認を実施。 <p>⑦A系ガラス固化試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実廃液による試験を行い、安定運転確認および性能確認を実施。

2010年9月14日

日本原燃株式会社

第三者割当による募集株式の発行について

当社は、9月9日開催の取締役会におきまして、原子燃料サイクル事業を中長期にわたり着実に推進するため、財務体質の強化を図り、安定した経営基盤を構築することが重要であると判断し、第三者割当の募集株式発行による4,000億円の増資を実施することにつきまして、臨時株主総会及び同総会を受けて開催される取締役会（ともに本年9月22日開催予定）へお諮りすることを決定いたしました。

当該の増資が実施された場合の手取金につきましては、再処理事業における工場しゅん工後の製品貯蔵庫や廃棄物対策関連設備をはじめ、MOX燃料製造事業、ウラン濃縮事業、廃棄物貯蔵管理事業等において今後発生する設備投資に順次充当する予定でございます。

なお、本募集株式の割当先につきましては、当社株主であり、また当社の事業運営上も極めて密接な関係にある電力会社を中心に、本募集株式の引受について依頼することを予定しております。

<臨時株主総会及び取締役会（9月22日開催予定）において予定する議案の内容>

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| (1) 募集株式の種類及び数 | 普通株式 40,000,000株 |
| (2) 募集株式の払込金額 | 1株につき金10,000円 |
| (3) 申込期間 | 平成22年9月22日から同年9月27日まで |
| (4) 払込期日 | 平成22年9月29日 |
| (5) 増加する資本金及び資本準備金の額 | |
| 増加する資本金 | 1株につき金5,000円（総額金2,000億円） |
| 増加する資本準備金 | 1株につき金5,000円（総額金2,000億円） |

(6) 割当予定先及び割当予定数

本件第三者割当による募集株式の引受申込みがなされることを条件として、次の者に株式を割り当てる。

割 当 予 定 先	割 当 予 定 数
北 海 道 電 力 株 式 会 社	1,512,570 株
東 北 電 力 株 式 会 社	2,342,300 株
東 京 電 力 株 式 会 社	13,045,420 株
中 部 電 力 株 式 会 社	4,176,440 株
北 陸 電 力 株 式 会 社	1,167,180 株
関 西 電 力 株 式 会 社	7,288,920 株
中 国 電 力 株 式 会 社	2,183,500 株
四 国 電 力 株 式 会 社	1,798,410 株
九 州 電 力 株 式 会 社	3,898,540 株
日 本 原 子 力 発 電 株 式 会 社	2,286,720 株
株 式 会 社 日 立 製 作 所	100,000 株
株 式 会 社 東 芝	100,000 株
三 菱 重 工 業 株 式 会 社	100,000 株
合 計	40,000,000 株

以 上